平成２３年度　認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成２４年３月
敦賀市（福井県）

Ⅰ．平成２３年度フォローアップ結果のポイント

〇計画期間;平成21年12月～平成27年3月（5年4月）

1．概況

本市の中心市街地では、認定から 2 年が経過する中で、ハード事業においては、敦賀駅西地区土地区画整理事業をはじめとした、福井大学附属国際原子力工学研究所（平成 24 年 4 月供用開始予定）の整備や敦賀駅交流施設（平成 25 年供用開始予定）の整備といった敦賀駅周辺の一体的な整備が着実に進んでいる。

また、ソフト事業では、ＮＨＫ大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」のゆかりの地であることを題材とし、既存観光施設に新たな誘客を図るスタンプラリーやイベント等を実施するとともに、舟溜り地区や氣比神宮周辺における地域住民が主体となって行う景観形成事業等を実施し、ハード・ソフト両面における取組を一体的に推進してきた。

このような中で、平成 23 年において、数値目標の目標値を上回ることが予想されていたが、東日本大震災等の影響と、本市最大のイベントであり、中心市街地に最も誘客が期待することができる「敦賀まつり」の開催期間中に台風 15 号が上陸したこと等で、観光客が伸び悩み、先述した大河ドラマのゆかりの地である金崎宮以外は、観光施設の年間入込客数について目標値を下回ることとなった。

中心市街地をめぐる状況としては、敦賀駅前において、平成 20 年から平成 23 年にかけてビジネスホテルが相次いで新規開業し、それに伴い駅前商店街では、空き店舗を活用した飲食店の出店が増加している。

その一方で、中心市街地区域外に立地している大型ショッピングセンターが、平成 24 年 3 月末頃に閉店し、秋のリニューアルオープンに向けて大改装を行うこととなっており、今後、中心市街地の来客数及び売上額に影響が出ることが懸念される。

また、本市の中心市街地活性化基本計画の進捗状況については、認定後に追加した 2 事業を含めた 72 事業のうち約 9 割が着実に取組が進められており、進捗状況は良好である。

しかし、本計画の中核的な位置づけにある敦賀酒造保全活用事業をはじめ一部事業について、遅れが生じていることから、これらの事業の実施に向け、中心市街地活性化協議会をはじめ地域とともに調整を図っていくことが必要である。

※進捗状況の内訳（平成 22 年度末）：完了した事業 10 事業（13.9%）
実施中の事業 54 事業（75.0%）
未着手の事業 8 事業（11.1%）

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
敦賀の歴史・文化と新たな魅力が調和した中心市街地	観光施設の年間入込客数	847,500 人（H20）	891,900 人（H26）	889,600 人（H23）	－	③
人が行き交い、新たな交流が生まれる中心市街地	歩行者・自転車通行量（休日）	2,859 人/日（H20）	3,150 人/日（H26）	3,528 人/日（H23）	－	③

注）①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

（1）観光施設の年間入込客数

本計画の中核的な位置づけにある敦賀酒造保全活用事業については、地権者との合意形成が図れていない等、進捗に支障が生じている。

しかし、平成 24 年は古くから交通の要衝である本市にとって、敦賀－長浜間鉄道開通 130 周年等の記念すべき年にあたり、これを契機として、市民有志が中心となり市民団体が発足し、シンポジウムや金ヶ崎周辺で開催するイベント等が企画されるなど、民間を主体とした観光誘客を図る新たな取組が行われつつある。

このことから、引き続き敦賀酒造保全活用事業の進捗に取組むとともに、新たな民間発意の取組に積極的に支援することで、目標値の達成は可能と見込まれる。

（2）歩行者・自転車通行量（休日）

敦賀酒造保全活用事業について、地権者との合意形成が図れていない等、進捗に支障が生じているものの、敦賀駅交流施設整備事業等の基盤整備は順調に進捗しているとともに、新たに歴史的な町家の再生を主軸とする舟溜り地区における活性化計画が進んでいることから、目標値の達成は可能と見込まれる。

4．前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

「前回の見通し」なし

5．今後の対策

現在着手している事業を着実に進め、ソフト事業との連携を強化していくことにより、数値目標の達成に取り組んでいくとともに、敦賀酒造保全活用事業については、事業の実施に向け、今後も地権者との協議を継続していくとともに、規模や内容など、事業スキームの見直し等も検討していく。

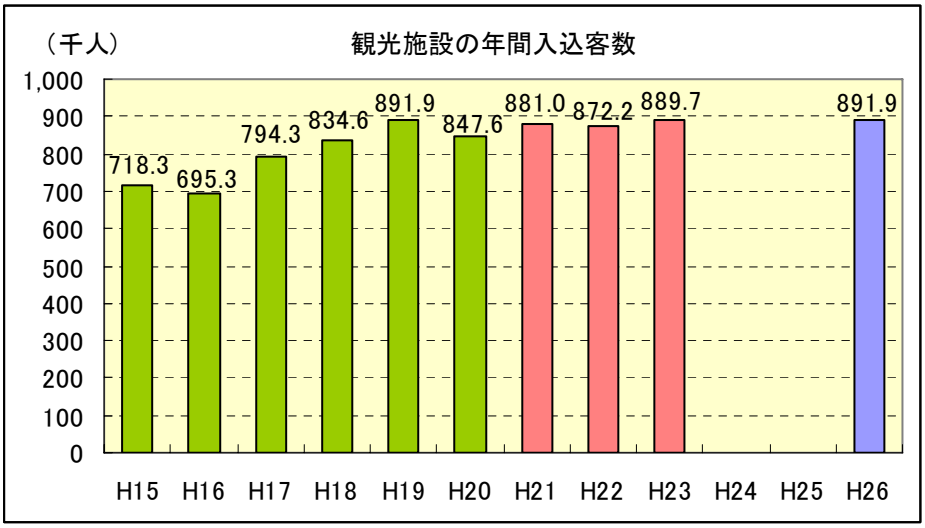
また、平成 24 年は「鉄道と港のまち　敦賀」にとって記念すべき年であり、平成 26 年度は、本市を取り巻く高速交通体系が大きな変革期を迎えようとしている。このような契機を捉え、市民が主体となったイベント等を積極的に展開するとともに、県と連携して進める舟溜り地区における町家再生等を行う活性化計画といった新たな取組を行うことにより、数値目標の達成をより着実なものとしていくよう取り組んでいく。

Ⅱ．目標毎のフォローアップ結果

目標１「敦賀の歴史・文化と新たな魅力が調和した中心市街地」

「指標：観光施設の年間入込客数」　※目標設定の考え方基本計画 P56～P62 参照

１．調査結果の推移



年	（単位）
H20	847,500 人 （基準年値）
H21	880,900 人
H22	872,200 人
H23	889,600 人
H24	
H25	
H26	891,900 人 （目標値）

※調査方法；観光施設の年間入込客数

※調 査 月；毎年１月～12 月実施、翌年１月取りまとめ

※調査主体；敦賀市

※調査対象；氣比神宮、市立博物館・みなとつるが山車会館、旧敦賀港駅舎、アクアトム、金崎宮、つるが大漁市場、備前屋スクエア（市立博物館・みなとつるが山車会館については、隣接しているため、両施設の合計を平均して算出）

２．目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①．敦賀酒造保全活用事業（まちづくり会社設立予定）

事業完了時期	【未】平成 22 年度
事業概要	歴史的な木造建築物である敦賀酒造を取得、保全、利活用し、テナントミックスを行い、集客施設として再整備する。
事業効果又は進捗状況	認定時の想定事業効果として 114,610 人の増加を見込んでいるが、地権者との合意形成が図れておらず、事業の進捗に遅れが生じている。また、設立予定のまちづくり会社についても当初の出資予定者による会社の設立が困難となっており、事業の実施に向け、今後も地権者との協議を継続していくとともに、規模や内容など、事業スキームの見直しを行っていく必要がある。

②. つるが大漁市場整備運営事業（敦賀魚商協同組合、敦賀市漁業協同組合）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	地魚を販売する水産物直売所「つるが大漁市場」を整備運営する。
事業効果又は進捗状況	平成21年4月より運営を開始し、舟溜り地区において、近傍の博物館通りとの一体的な観光拠点の形成に寄与している。大漁市場周辺のお魚通りで開催されたイベントでは、期間中（１１日間）に4,500人が来場するなど、民間主体で行っている新しい取組によって効果が現れている。この集客を維持、増加していくために、今後も観光協会等の行う事業との連携を図っていく。

③. 鉄道展開催事業（敦賀市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	敦賀の鉄道に関する歴史を紹介する鉄道資料館を整備運営する。
事業効果又は進捗状況	平成21年3月より既存ストックである旧敦賀港駅舎を鉄道資料館として活用し、年間 2 万人以上の来館者がある。この集客を維持、増加していくために、今後も展示内容の充実を図る等魅力ある施設として取組を継続していく。

④. みなとつるが山車会館魅力向上事業（敦賀市）

事業完了時期	【実施中】平成19年度～平成24年度
事業概要	みなとつるが山車会館の映像シアターの改修、山車の水引幕の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	隣接する市立博物館と合わせて、舟溜り地区における文化観光拠点の形成に寄与している。事業については順調に進捗しており、今後も展示内容の充実を図る等、魅力ある施設として取組を継続していく。

⑤. おもてなしスタンプラリー事業（敦賀商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成19年度～
事業概要	スタンプラリーを活用した観光ＰＲの実施
事業効果又は進捗状況	実施回数の増加やＮＨＫ大河ドラマとのタイアップ等、イベント内容の充実を図り、市民・観光客参加型のイベントとして、中心市街地への誘客と回遊効果を高めている。

３. 目標達成の見通し及び今後の対策

（１）目標達成の見通し（③）

中核的な位置づけにある敦賀酒造保全活用事業において、地権者との合意形成が図れておらず、設立予定のまちづくり会社についても、当初の出資予定者による会社の設立が困難となっており、当該事業の進捗が不透明な状況にある。このことから、事業の実施に向け、今後も地権者との協議を継続していくとともに、規模や内容など、事業スキームの見

直し等を行っていく必要がある。

ただし、全体として、本計画に掲げる事業は概ね順調に進捗しており、観光施設の年間入込客数も平成23年の調査結果において、基準年より4.9%増加しており、引き続き計画に取り組むことで目標の達成は可能と見込まれる。

（2）今後の対策

今後は、中心市街地活性化協議会との連携を図り、次のことに積極的に取り組むことで、目標数値の達成を確実なものとするとともに、中心市街地の一層の賑わいの創出を図る。

①敦賀酒造保全活用事業

本計画の中核的な位置づけにあり、当該数値目標においても大きな寄与を占める敦賀酒造保全活用事業については、今後も地権者との合意形成に向けた協議を継続していくとともに、規模や内容など、事業スキームの見直しを行う等、事業の進捗に全力を挙げる。

②新たな取組

平成24年は、古くからの交通の要衝であり「鉄道と港のまち　敦賀」にとって、敦賀－長浜間鉄道開通130周年、敦賀－ウラジオストク定期航路開設110周年、欧亜国際連絡列車運行100周年といった記念すべき年となっている。これを契機として、市民有志が中心となり、市民団体が発足し、シンポジウムやイベント等が企画されており、これを支援することで中心市街地の活性化に繋げていく。

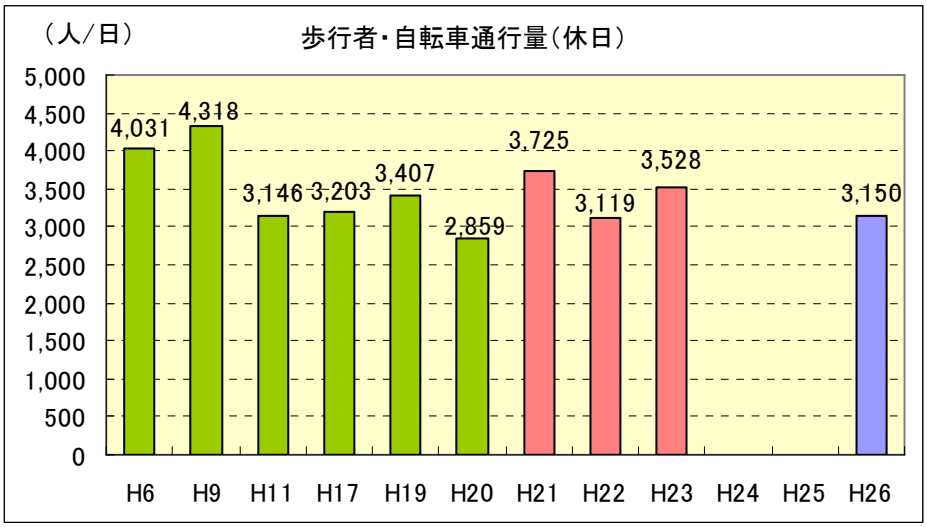
また、平成26年度の舞鶴若狭自動車道の全線開通や北陸新幹線の金沢開業、更に、北陸新幹線の金沢敦賀間についても10数年後には開業する見通しとなっており、これらの高速交通体系の整備を見据え、魅力ある受け皿づくりに取り組む中で、県と連携して特色ある地域資源を整備する「ふるさと創造プロジェクト事業」を計画している。本市では、現在整備を進めている敦賀駅交流施設における観光情報発信の強化や舟溜り地区における歴史的な町家再生等を行い、賑わい拠点の一層の充実を図っていく。

更に現在、「鉄道と港のまち」としての資源が多く残り、本計画の賑わい拠点のひとつである金ヶ崎周辺地区について、様々な資源の一体的な活用を目指した将来のグランドデザインとなる整備構想の策定を進めている。この構想の実現に向けて早急に着手できる事業については、基本計画への追加も検討し取り組んでいく。

目標２「人が行き交い、新たな交流が生まれる中心市街地」

「指標：歩行者・自転車通行量（休日）」　※目標設定の考え方基本計画 P63～P72

１．調査結果の推移



年	（単位）
H20	2,859 人/日（基準年値）
H21	3,725 人/日
H22	3,119 人/日
H23	3,528 人/日
H24	
H25	
H26	3,150 人/日（目標値）

※調査方法；歩行者・自転車通行量等調査

※調 査 月；毎年 9 月～11 月実施、翌年 3 月取りまとめ

※調査主体；敦賀市

※調査対象；休日の歩行者及び自転車通行者（3 地点）

２．目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①．情報板（地域生活基盤施設）情報機器（（社）敦賀観光協会、敦賀市）

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	敦賀駅交流施設内に整備される観光案内所にタッチパネル式の情報端末器を設置し、観光案内所の情報発信機能の強化を行う。
事業効果又は進捗状況	敦賀駅交流施設の整備が遅れていることに伴い、事業の進捗に遅れが生じている。敦賀駅交流施設の整備とあわせて事業を実施し、平成 24 年度末までに整備、平成 25 年度供用開始予定となっている。

②．高次都市施設（観光交流センター）（敦賀市）

事業完了時期	【実施中】平成 22 年度～平成 24 年度
事業概要	市の玄関口である敦賀駅において、従来の待合所等を改築し、物販施設やギャラリースペース等の機能を入れた交流施設を整備する。
事業効果又は進捗状況	現在、施設内部の具体的な活用等について調整を行っており、事業の進捗は順調であり、平成 24 年度末までに整備、平成 25 年度供用開始予定となっている。

③. 観光ＰＲ支援事業（地域創造支援事業）（（社）敦賀観光協会）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	ＰＲパンフレット作成、雑誌・新聞等への情報掲載を行う。
事業効果又は進捗状況	観光ＰＲパンフレットの作成・配付、雑誌・新聞等への情報掲載により、誘客を向上し、敦賀のイメージアップと観光振興を図る。

④. 広域連携大学の拠点整備事業（福井大学、敦賀市）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度～平成 23 年度
事業概要	原子力分野等の教育・研究を行う福井大学附属国際原子力工学研究所の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	特色ある原子力分野等の教育・研究機能を有する広域連携大学拠点形成の中核となる福井大学附属国際原子力工学研究所の施設整備を行い、学生等の増加に伴う賑わいの創出を図る。平成 23 年度に施設整備を行い、平成 24 年 4 月より供用開始する。

⑤. 敦賀酒造保全活用事業（まちづくり会社設立予定）

事業完了時期	【未】平成 22 年度
事業概要	歴史的な木造建築物である敦賀酒造の取得、保全、利活用し、テナントミックスを行い、集客施設として再整備する。
事業効果又は進捗状況	認定時の想定事業効果として 247 人（⑥と⑦の事業と合わせて）の増加を見込んでいるが、地権者との合意形成が図れておらず、事業の進捗に遅れが生じている。また、設立予定のまちづくり会社についても当初の出資予定者による会社の設立が困難となっており、事業の実施に向け、今後も地権者との協議を継続していくとともに、規模や内容など、事業スキームの見直しを行っていく必要がある。

⑥. みなとつるが山車会館魅力向上事業（敦賀市）

事業完了時期	【実施中】平成 19 年度～平成 24 年度
事業概要	みなとつるが山車会館の映像シアターの改修、山車の水引幕の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	隣接する市立博物館と合わせて、舟溜り地区における文化観光拠点の形成に寄与している。事業については順調に進捗しており、今後も展示内容の充実を図る等魅力ある施設として取組を継続していく。

⑦. つるが大漁市場整備運営事業（敦賀魚商協同組合、敦賀市漁業協同組合）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	地魚を販売する水産物直売所「つるが大漁市場」を整備運営する。
事業効果又は進捗状況	平成21年4月より運営を開始しており、舟溜り地区において、近傍の博物館通りとの一体的な観光拠点の形成に寄与している。「つるが大漁市場」周辺のお魚通りで開催されたイベント期間中（１１日間）には、累計 4,500 人が来場するなど、民間主体の取組による効果がみられる。この集客を維持、増加していくために、今後も観光協会等の行う事業との連携を図っていく。

３.目標達成の見通し及び今後の対策

（１）目標達成の見通し（③）

本計画の中核的な位置づけにある敦賀酒造保全活用事業については、事業の進捗が不透明な状況にある。このことから、事業の実施に向け、今後も地権者との協議を継続していくとともに、規模や内容など、事業スキームの見直し等を行っていく必要がある。

敦賀駅周辺においては、敦賀駅交流施設整備をはじめとした基盤整備は順調に進捗しているとともに、敦賀駅の乗降客数が年々堅調な伸びを示しており、これを背景として、ビジネスホテルの開業とこの利用者等を対象とした飲食店の出店が増加している。

商店街による「駅前ふれあい市」などのイベントを定期的に行うことにより駅前に賑わいが生まれ、歩行者通行量が基準年度から約22%増加し1,961人/日となった。

また、敦賀駅から舟溜り地区や金ヶ崎周辺の既存観光施設への誘客を目的として、スタンプラリーや「百縁笑店街」、「晴明の朝市」等の民間主体のイベントを継続的に開催したことから、氣比神宮周辺エリアの歩行者通行量が基準値から約30%増加し、1,437人/日となった。

このように、ハード・ソフト両面における一体的な取組によって、氣比神宮を中心とした中心市街地の賑わい拠点を繋ぐ回遊ルートができつつあることから、中心市街地全体として、全体の目標値3,150人/日を約12%上回る3,528人／日の歩行者・自転車通行量を達成した。

今後もこの集客を維持、増加していくための取組を継続して進めていくことで目標の達成は可能と見込まれる。

（２）今後の対策

平成23年度調査時点において、既に目標数値を達成している状況にあることから、今後においては、中心市街地活性化協議会との連携を図り、一層の計画推進に取り組むとともに、特に次のことに積極的に取り組むことで、更なる指標値の向上を図る。

①敦賀酒造保全活用事業

本計画の中核的な位置づけにあり、当該数値目標においても大きな寄与を占める敦賀酒造保全活用事業については、今後も地権者との合意形成に向けた協議を継続していくとともに、事業スキームの見直しを行う等、事業の進捗に全力を挙げる。

②新たな取組

平成24年は、古くからの交通の要衝であり「鉄道と港のまち　敦賀」にとって、敦賀

ー長浜間鉄道開通 130 周年、敦賀ーウラジオストク定期航路開設 110 周年、欧亜国際連絡列車運行 100 周年といった記念すべき年となっている。これを契機として、市民有志が中心となり、市民団体が発足し、シンポジウムやイベント等が企画されており、イベント実行委員会と敦賀市が連携し、中心市街地の活性化に取り組んでいく。

また、平成 26 年度の舞鶴若狭自動車道の全線開通や北陸新幹線の金沢開業、更に、北陸新幹線の金沢敦賀間についても 10 数年後には開業する見通しとなっており、これらの高速交通体系の整備を見据え、魅力ある受け皿づくりに取り組む中で、県と連携して特色ある地域資源を整備する「ふるさと創造プロジェクト事業」を計画している。本市では、現在整備を進めている敦賀駅交流施設における観光情報発信の強化や舟溜り地区における歴史的な町家再生等を行い、賑わい拠点の一層の充実を図っていく。